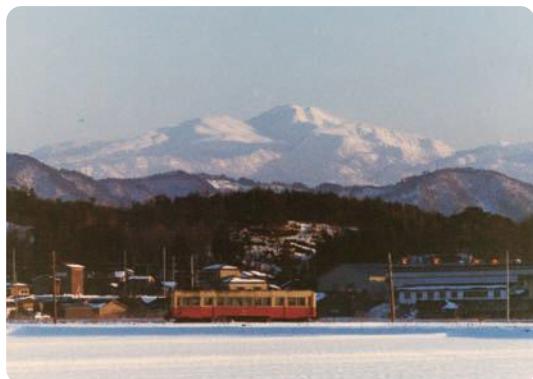




はじめに

能美電とは、大正14年から昭和55年まで、半世紀余にわたり、現能美市内の東西を日本海に面した「新寺井駅」～白山山麓の「鶴来駅」間を、ゆっくりとした登り勾配の鉄路で市内両端を横断して運営されていた電気鉄道の愛称です。



靈峰白山に見守られながら走る能美電

それまでの荷車や馬車に替わって地元産業品流通活性化のため、徒歩や自転車に替わって近隣住民の貴重な交通手段として、四季折々の生活の中で親しまれ愛用されたのどかなローカル電車の通称でもあります。

この「能美電ものがたり」は、地元先人達が自らの熱意と実践力により、立ち上げた総延長16.7キロの短距離運行路線で、郷土愛に溢れた22駅の誠に地方色豊かな電気鉄道会社の発祥か

ら廃線までの経過と乗客達の体験談を綴ったエピソード集です。

そして、能美市横断の鉄路を通じた市民と電車との心温まる交流の感動物語でもあります。住民に愛された能美電が廃線となってから、すでに33年経ちました。設立から最盛期に利用した多くの方は故人となり、高齢化が急進行する中で、能美線のことを語り伝える人も年々と数少なくなりました。



能美電に別れを告げる超満員の住民

廃線後のレール跡が桜並木の健康ロードや市道になり、そこに電車が走っていたことを知る人も、語る人も少なくなっています。

しかし今なら、誕生から終焉までの変遷を物語として、後世に残すことができるラストチャンスではとの危機感に基づき、編集を思い立ちました。のどかな田園、縁深き山里を走行する電車風景と、関わった人々のドラマを次世代の子供達に伝えることで、これから的人生の目標

作りへの具体例や夢挑戦への原動力に役立って欲しいとの思いと願いを込めて編集しました。

シニア大楽編集委員会



「能美電ものがたり」発刊によせて

この度、シニア大歓の皆さんの熱意とご努力により、「能美電ものがたり」が発刊される運びとなりましたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。併せて貴重な資料を提供いただきました皆様にも心からお礼を申し上げます。

「能美電」や「能美線」とは、私たちの世代には耳慣れたフレーズで、日々の生活の中に溶け込み、文字通り市民の足として非常に多くの方々に利用されてきました。

本書にも詳細に語られています通り、大正14年、当時の鶴来から辰口、寺井、そして根上までを結ぶものとして計画、運行を開始した電車は、豊かな穀倉地帯で育まれた食糧や、遠く世界にまで輸出されて“ジャパンクタニ”とまで称されるようになった伝統工芸九谷焼の流通に大きな役割を果たしてきました。戦時中には男手が戦争に携わる中、女性の運転手が職務を担い、地元を支えてくれた時期もあったと聞きます。そして昭和38年のいわゆる“三八豪雪”の時には、大変な悪条件の中を地域の生活と足を守るために電車道だけは確保しようと一生懸命に皆さんが努力していたことを思い起こします。本書に掲載されているエピソードを読むにつけ、改めてそれらの記憶がありありと思い出されます。

これらの事はすなわち、「能美電」が単に乗り物としてではなく、人々の記憶のよりどころ、歴史の生き証人としての思い出そのものであったと言えます。出会いあり、別れあり、郷里を離れ都会へ出ていく若人の人生の節目の出発点、その決意の源にもなったのが、この電車に対する能美の人々の思いではなかったかと思わずにはいられないのです。

能美市も根上・寺井・辰口の旧3町が合併して10年目を迎えるました。「市」としての一本化による更なる発展を目指せるのも、かつて鉄路で旧3町を横断し、人々の往来だけでなく経済的・文化的にもつなげていた「能美電」の歴史があったからこそではないかと思います。3町合併による能美市が誕生した現在、市内を縦貫巡環するコミュニティバスのみバスが走っていますが、もし今も能美電が健在ならば市内の主要な集落を結んでいた路線であり、省エネ時代にふさわしい市内電車として重宝されたのではないか、地域振興にも大きく寄与してくれたのではないかとふと思ったりいたします。

現在、市立博物館に隣接して整備されております「のみでん広場」では、当時の車両をそのままに野外展示を行っております。本書を片手に、親子3世代にわたって昔語りに花を咲かせ、次の世代へ、この地を走っていた電車の記憶を語り継いでいただければと存じます。

また、学校教育、ふるさと教育の中でも、当時の生活様式や、地域発展に尽くされた先達の皆様のご苦労や心意気を知っていただく資料として、本書を大いに活用していただければと願ってやみません。

最後に、資料の提供をいただきました北陸鉄道株式会社の皆様、また、本書の編集に尽力されたシニア大歓の皆様、エピソードをお寄せくださった市民の皆様をはじめ携わっていただきました関係者各位に改めて心から御礼を申し上げまして、発刊の祝辞にかえさせていただきます。

平成26年3月

能美市長

酒井博次郎